

事業概略書

事業名	精神障害者を対象とした相談支援事業所等におけるアウトリーチ支援に関する実態調査と分析
事業目的	<p>平成22年5月に設置された「新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム」の第1ラウンドで、「アウトリーチ支援実現に向けた考え方」が示された。そして、未治療者や治療中断者といった治療契約等が交わされていない者に対して、専門職による多職種チームが訪問による支援（アウトリーチ支援）を提供する「精神障害者アウトリーチ推進事業」が平成23度より開始されることになった。未治療・治療中断者を対象としたアウトリーチ支援については、相談支援事業の延長で行なっている相談支援事業所や、行政からの依頼に応じて実施している訪問看護ステーション等が数年前から活動を継続している。そこで、既存の医療・福祉サービスでは支援が行き届かない精神障害者に対するアウトリーチ支援を実践している相談支援事業所や訪問看護ステーション等を対象に実地調査を実施し、対象者像やその選定方法、具体的な支援内容や地域連携について明らかにすることによって、精神障害者の地域生活支援に携わる専門職のアウトリーチ支援の実際や効果に対する理解を促進する。</p>
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) アウトリーチ支援に係る実態調査 2) 先行事例の分析と今後の支援のあり方に関する検討 3) アウトリーチ支援に係る事例集の作成
事業実施結果及び効果	<p>事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) アウトリーチ支援に係る実態調査 <ul style="list-style-type: none"> 先進的に未治療・治療中断者を対象としたアウトリーチ支援を実践している相談支援事業所等、下記の6ヶ所に聞き取り調査を実施した。 調査対象 <ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所れいんぼー（岩手県） 地域生活支援センター翔（山形県） 地域生活支援センターゆずり葉（栃木県） 訪問看護ステーション元（東京都） 多摩たんぼぼ訪問看護ステーション（東京都） 潮・地域活動支援センター（福岡県） 2) 先行事例の分析と今後の支援のあり方に関する検討 <ul style="list-style-type: none"> 有識者による検討委員会を設置し、聞き取り調査によって抽出した事例について、以下の内容で分析を行った。

	<p>分析項目 対象者像 対象者の選定方法（紹介ルート等） アウトリーチ支援導入の契機 具体的な支援内容 多職種連携や、地域や行政との連携に関する 具体的内容 アウトリーチ支援の効果や課題 地域と事業所の状況 等</p> <p>3) アウトリーチ支援に係る事例集の作成 調査対象の施設でアウトリーチ支援を行った利用者の中から、 精神医療の受療中断者、 精神疾患が疑われる未受診者、 ひ きこもり状態の者、 長期入院等の後、退院した者に該当する事 例を抽出した。今回の調査では、 に該当する居事例はなく、 ～ の11事例が抽出された。</p> <p>その結果、紹介ルートとしては、受療中断者は家族や友人から の相談が多く、未治療者は近隣住民や保健所からの相談が多く、 いずれも本人を病院に連れていくことができずに困っている状態 で相談が持ち込まれていた。また、具体的な支援内容については いずれも対象者との関係づくり（ジョイニング）に最も多くの時 間をかけ、対象者のペースに合わせて慎重に接近していた。そし て、信頼関係が構築されてから、問題解決のための介入を行なっ ていた。精神症状の悪化によって、精神医療に対する不信感や抵 抗感が強くなっている対象者を脅かさないように、対象者の状態 やペースに合わせて、訪問の時間帯や頻度、場所等を柔軟に対応 することはアウトリーチ支援の特徴であり、強みである。既存に サービスでは対応することが難しい支援を実施することで、大き な効果が得られるアウトリーチ支援の内容が明らかになった。</p> <p>これらの内容を盛り込んで、11事例のアウトリーチ支援の内 容を紹介する事例集を作成した。</p>
事業主体	〒108 - 0075 東京都港区港南 2 - 12 - 33 品川キャナルビル7階 社団法人日本精神科看護技術協会 TEL : 03 - 5796 - 7033 E-MAIL : info@jpna.or.jp